

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	3870101379		
法人名	株式会社クロス・サービス		
事業所名	グループホームだんだん		
所在地	松山市朝生田町7丁目13番28号 (電話) 089-931-7702		
管理者	上野 睦子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年11月24日

【情報提供票より】 (平成20年9月1日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.0人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		
(3)利用者の概要 (平成20年9月1日現在)			
利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	0名	要介護4	1名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 87.3歳	最低 69歳	最高 99歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 (あり)・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 (あり)・なし	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>近所のお店に、おやつを買いに行くことを楽しみにされている方がおられる。調査訪問時、「松山かるた」を楽しみながら地元の話題等で会話が弾んでいた。 利用者一人ひとりの似顔絵に、服の好みや整容の注意点をまとめた「おしゃれマップ」を作成し、日々のケアに活用されている。調査訪問時の食後の過ごし方も、一人ひとり希望を聞き支援されていた。 個別記録の様式を改善し、利用者の言葉や様子をより具体的に把握できるよう工夫されており、1ヶ月分の記録をもとにケア会議を行っておられる。会議では、利用者の目標を支えるアイデアやご家族の思い等を十分踏まえて、話し合うようにされている。</p>
--

【質向上への取組状況】

<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> この一年間、計画を立てて勉強会を行っておられ、評価表で改善にあがったことをテーマにグループワークされる等、職員がレベルアップできるよう取り組まれた。
<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての職員で自己評価に取り組み、話し合い作成された。評価委員を立ち上げ、自己評価をもとに生活を見直された。
<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議はメンバーが増えてきており、意見交換を行われたり、アドバイス等もいただいている。職員の方も順番に参加され、ご家族の意見等も直接聞ける良い機会になっている。会議のメンバーの方のアイデアで、近くの小学生の体験授業を引き受けられた。
<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ご家族の来訪時に、ご意見・ご要望等を聞き取っておられる。年1回アンケートを実施し、ご家族よりご意見をいただき、改善につなげておられる。
<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校との交流があり、小学生が事業所を訪れ、一緒におやつ作り等を楽しまれた。ご近所のお宅に伺い、お茶をごちそうになることもある。

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 (株)クロスサービス グループホームだんだん

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

上野 睦子

評価完了日

平成 20 年 10 月 6 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			運営方針をもとにミーティングにて、スタッフ全員でねりあげてつくった。地域、支え合う、“ただいま”“おかえり”誰もが、あったかだんだんというキーワードが入っている。		半年に1回は見直しスタッフ全員で確認を続け、理念の意味や大切さを感じてもらえるようにする。また、今の理念は長すぎたり曖昧な言葉で終わっているのので、12月ごろには見直しが必要。
			(外部評価)		
			事業所では、利用者が地域に自由に出かけながら、暮らしを続けることを支援できるように理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			半年に一度はスタッフ全員で共に目指すものを確認している。日々の申し送りやケアの説明にも必ず理念をもとに伝えるようにしている。スタッフも具体的な部分の理念については実践できている。		コンプライアンスルールや行動指針などもあり、整理が必要。具体的な理念だと実践しやすいができたできないで判断しやすく、なんの為に必要なのか大切なことが伝わらないところもある。ケアのなかで振り返れる理念が必要。
			(外部評価)		
			半年に一度、理念が日々実践できているか、職員がペアになって振り返る機会を作り、職員のモチベーション向上に繋げておられる。又、日々の申し送りや会議等でも理念をもとに話し合われている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			見学者やボランティア、実習などホームに関わってもらう人には理念と想いを説明しているが、一度きりになっていたり、家族会や運営推進会議では取り上げてつたえることが難しくできなかった。		かわら版（地域向け新聞）やだんだん便り（家族向け新聞）、家族会、運営推進会議で説明している。“どんな風に生活しているのか”“どんな風に生活してほしいのか”を説明していくことが大切。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方と挨拶を交わしたりはしているが、気軽に訪問してはもらえていない。ご利用者と散歩していて、声をかけてもらったり、おみかんや野菜をいただいたりしている。		ホームから外へ出る機会をつくる。近所の掃除やホーム前の掃除を行い日常的に交流をもてるようにしていく。回覧板はご利用者と一緒に持って行く。外で声をかけてもらったら、ホームの様子なども少しづつ伝えていく。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域行事に参加してきたが、関係の持ち方や、ご利用者の状態もあり、以前のように積極的に参加できていない(参加できるものには参加している)。小学校との交流は続いている。 (外部評価) 小学校との交流があり、小学生が訪れ、一緒におやつ作り等を楽しまれた。ご近所のお宅に伺い、お茶をごちそうになることもある。		スタッフだけでも参加していき関係をつくっていく。行事に参加するだけでなく地域活動のお手伝いや片付けなど積極的な姿をみせていくことも大切。また、当たり前なのだが、交通ルールや公共の場でのマナーなども大切にしていく。 事業所では今後さらに、自治会行事への参加や日常的なご近所とのつきあい等、さらに交流を深めていきたいと考えておられた。介護教室の開催等も検討されていた。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 事業所より運営推進会議でアピールしたり発信している。ホームでつくっているかわら版(地域向け新聞)にケアの工夫や紹介など取り組んでいる。		まずはホームのこと、認知症のことを知ってもらう取り組みが必要。運営推進会議への参加をいろんな方に声をかけていく。かわら版に地域の危険マップを掲載してみる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価を全スタッフで取り組み、3ヶ月かけてすりあわせしている。前回の評価を受けて改善内容の取り組みをスタッフに委員になってもらいチーム全体で取り組んできた。 (外部評価) すべての職員で自己評価に取り組み、話し合い作成された。評価委員を立ち上げ、自己評価をもとに日々の支援を見直された。この一年間、計画を立てて勉強会を行っておられ、評価表で改善にあがったことをテーマにグループワークされる等、職員がレベルアップできるよう取り組まれた。		改善内容は具体的に記入し前回の評価と比べながら自己評価を行っていく。優先順位がつけにくくとりくめなかった項目もあるため取り組んでいきたい。 また、委員を設けたことは良かったので続けていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価)		
			運営推進会議にはスタッフが持ち回りで参加するようにして おり、会議の内容や参加者のことはミーティングにてスタッ フに返すようにしている。特に地域の方からの意見(地域の 特性や虐待についての話、松山市の状況など)をケアに活か すことができた。		外部評価への取り組みを報告したり、活用することができな かった。地域のかたに自分達の取り組みをわかりやすく報告 できないか。 一緒に取り組めないか。
			(外部評価)		
			運営推進会議はメンバーが増えてきており、意見交換を行わ れたり、アドバイス等もいただいている。職員の方も順番に 参加され、ご家族の意見等も直接聞ける良い機会になってい る。会議のメンバーの方のアイデアで、近くの小学生の体 験授業を引き受けられた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価)		
			地域包括支援センターに成年後見人制度を相談した り、市の実習受け入れや研修に参加している。また、 代表者は日頃から市の担当者と相談のやりとりを行 い、連携や交流をもっている。		スタッフには市の役割や連携の理解が難しい。まずは 書類(介護保険の更新など)を市役所にご利用者と一 緒にいつてみる。
			(外部評価)		
			市の担当者とは日頃から連携を図り、必要に応じて気 軽に相談できる関係を作っておられる。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	(自己評価)		
			管理者は外部の勉強会等に参加している。また内部の 勉強会でテーマにあげスタッフ間で勉強している。		スタッフにはピンとこないところがある様子。個々が 勉強する意識を持つ。(すりあわせの時に確認し た。) 内部の勉強会で取り上げる。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見逃ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			内部の勉強会で取り上げ、スタッフ全員で虐待につい て考える機会をつくった。スタッフの意識も高まって おり、キツイ声かけや対応があったときはお互いに声 を掛け合ったり、ケアが変わったりできている。		声かけや言葉遣い、声のトーンなど日々の現場でリー ダーが確認していく。年1回の勉強会は続けていく。 ネグレクトについて来年は考えていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご利用者の自宅へいたり、ホームに見学に来てもらったり少しずつ関係をつくるようにしながら何に困っているのか、どうしていきたいのか言葉や行動などでさぐるようにしている。また、当ホームの理念や必要事項、特色についても説明し問いかけている。		スタッフ全員が関わることは難しいがどんな経緯なのか、ホームの説明を全員ができるよう取り組んでいく。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご利用者も出席していただき意見を頂いている。苦情マニュアルを作成しており、ご利用者からのクレームを書類にしスタッフ間で情報共有できるようにしている。スタッフ以外の外部の人と一対一でも話できるような機会をもうけており、その際外部の人に苦情などなかったか確認している。		いろんな方とご利用者が接する機会（行事、家族との時間、ボランティアの受け入れなど）設け、スタッフにいけない情報を収集していく。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 一ヶ月に1回管理者が手書きでご家族にあわせた手紙を書き送っている。年2回家族会も開催しているが参加者は決まっている。家族会でのやりとりや内容は、個別に伝えてはいる。		家族会の開催をどうしていったらいいのか家族に問いかけながら内容も変えていきたい（食事会のようにしてみる、介護教室のようなものにしてみるなど） また、各家族によって知りたい内容は異なるため、ご家族に確認しつつ情報を提供していく。
			(外部評価) 毎月、管理者は、利用者一人ひとりの様子を詳しく手書きされ、手紙を送っておられる。ご家族の来訪時や遠方のご家族には、電話で日頃の暮らしぶり等を報告されている。		今後も、ご家族の事情に合わせ、事業所の取り組みをご家族にさらに知っていただけるよう、報告の工夫を重ねていかれてほしい。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時に説明している。（重要事項説明書に明記している。）また、ホームに来所時にも管理者だけでなく他のスタッフとも話せる場面をつくっている。年に1回はアンケートを実施している。		日頃の関係づくりを続けていく。いけない方もいらっしゃると思うので、いろんな視点で問いかけていく。
			(外部評価) ご家族の来訪時に、ご意見・ご要望等を聞き取っておられる。年1回アンケートを実施し、ご家族よりご意見をいただき、改善につなげておられる。		今後もさらに、ご家族の理解や協力を得られるよう、信頼関係を深めていけるような取り組みを工夫されてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティングや日々の申し送りの中でスタッフにも意見が言える場面をつくって、確認しあうようにしている。ケアについて日々の中で実践できるものはすぐに取り組むようにしている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) ご利用者の状況やホームの行事などにあわせてスタッフの勤務を調整している。管理者の勤務に幅があり勤務のカバーをしている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動は基本的になく、顔なじみのスタッフがご利用者と関わっている。この一年離職も異動もなかった。管理者は離職を防ぐためにもこまめにスタッフとコミュニケーションとるようにしている。 (外部評価) この一年間、職員の離職等はなかった。今後、異動があった場合でも、同じ法人の事業所であるので、遊びに行ったり来たりして利用者との関係を続けられるよう取り組みたいと考えておられた。		異動があっても同事所なので会いに行けたり、会いに来たりできる環境をつくっていきたい。ご利用者とスタッフも関係が続くと馴染みや大切な関係になっていく。断ち切れないよう支援する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部研修にて、リーダー研修や新人研修、ケア向上など開催しお互い振り返ったりケアの内容を深める取り組みを行っている。スタッフの段階に応じて内部・外部研修の提案をしている。 (外部評価) 年間計画を立てて外部研修を受講されており、毎月行われている系列グループの研修に加えて、事業所でも勉強会を実施されている。最近では、利用者の服薬について、効果等について学び、確認テストを行われた。		年間計画をスタッフとたてていきホームとしての必要な研修と個別に必要な知識を確認していく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			管理者やスタッフは相互研修事業への参加や市などの開催する勉強会や研修に参加している。また、運営者は市の研修の講師なども務めている。今年、近隣のグループホームの夏祭りに誘っていただきご利用者と共に参加した。		相互の訪問もそのときだけになってしまう。日常から交流できるよう工夫する。
			(外部評価)		
			相互研修では、職員が他のグループホームに訪問し、他事業所の取り組みを知ることができた。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			各スタッフの悩みなどを共有できるようミーティングなどで意見の引き出しを行っている。また、各スタッフが意見をいえるよう場面作りをしている。		各スタッフに合わせたストレス軽減を考えていきたい。(じっくり考えるスタッフ、話を聞いてほしいスタッフなど)
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			OJTや人事考課を行い、面談にて話を聞くようにしている。また、OJTのチェック票、人事考課票にて自分のがんばっている部分をアピールできるようになっている。		チェック票がスタッフの負担にならないよう、問いかけたりやり方をかえたりマンネリにならないよう考慮する。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			自宅へ訪問したり、直接ホームに来ていただいたりとして話しを聴くようにしている。スタッフにはミーティング時などに報告している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 管理者が直接会って話を聞くようにしている。また、ご本人とは別の場面をつくり話を聴くようにしている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 電話での対応が多い。よく話を聞き必要ならば、居宅支援事業所につないだり、他のグループホームや隣の小規模多機能ホームを紹介したりしている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 管理者が、入所前に自宅の様子を見に行ったり、ご本人が、ホームに見学に来ていただいたりしながら顔なじみになれるよう関係をつくるようにしている。ショートステイの利用や小規模多機能ホームから徐々に関係をつくって入所された方もいる。また、入所してからもご家族の協力を得られるよう声をかけている。 (外部評価) 管理者は、利用者の自宅を訪問して、部屋の様子や家具の配置等も確認されている。入居当初は職員が一日じっくりとかかわり、利用者が事業所や職員に馴染めるよう取り組まれている。		小規模多機能ホームからの相談や入所に繋がるケースが増えるようになるのでは、日頃から隔たり無くご利用者と関わっていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ご利用者と何事も相談、共に行うことを基本としている。ご利用者と一緒に考えたり、教えてもらう場面が増えている。(行事、食事作り、昔の話など)また、スタッフがあいだに入らなくてもご利用者同士で話しができたたり助け合ったりできるよう関係づくりや見守りなど行っている。感情の表出の少ない方へも共に過ごせるよう工夫している。 (外部評価) 職員は、利用者から梅干しの漬け方、地方祭のしきたり、花の生け方等を教わったり、又、利用者と一緒に過ごす時間の中で、戦争の話や昔の歌等を教えていただくこともある。		夕方からはご利用者と過ごす場面が少ないように思う。一緒に夕食の準備をしたり、話のできる場面をつくる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一部のご家族ではあるが、行事にて一緒に楽しんでもらったり、食事の介助をして頂いたり、ご家族と1日すごしてもらったり、自宅へ帰る支援をしていただいたりしている。		ご家族への一方的な声かけが多いのでは。声をかけ、反応をみつつ関係をつくっていく。ご家族とご本人が交わる場面をご家族が来所しているときにつくっていく。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族が来所されたときはご本人と共に日常を伝えたり、間に入って話しを聴いたり伝えたりしている。行事には参加を声かけご本人と想いでが作れるように支援している。また、ご本人の誕生日にはお祝いをご家族と共に考え協力できることは協力していただいている。		ご本人とご家族の関係や想いを知っていく。こちらの想いだけで判断しないようにする。ご本人とご家族が共に何かできる場面を作っていく。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) センター方式を活用し個々に知っていけるようチームでの情報を整理している。自宅へ帰る支援や昔の知人に手紙を送ったり、ホームに来てから関係ができた方もおられる。		まだまだ情報として活用できていなかったり、知らないことも多い。ご本人の今の想いや状況とすりあわせながら支援していく。ホームに来てから長い方もおられホームでの関係づくりも行っていく。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ご利用者同士のことは見守るを基本としつつ、ご利用者個々の感情を察しながら支援している。行事や誕生会などご利用者同士が顔をあわせたり集える場面作りをしている。		関係の悪いご利用者もいる。状況やその時のご利用者の気分を探りながらトラブルにはならないようスタッフが間に入る。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後も管理者より、手紙を郵送したり、電話で話をしたりさせてもらっている。退所後もお見舞いに行ったり、街中で偶然に出会ったときには声をかけてもらっている		ご家族の思いもあるので確認しながら関わりをもつようにする。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			日々の記録紙にセンター方式を変化させたものを使用し、ご利用者の言葉や行動、状態を残せるようにしている。その記録をもとにチームで1日1日を振り返り、ご本人の思いに近づけるよう意見を出し合っている。本音の部分はわかりにくいので、その後のご本人の行動も含めて確認するようにしている。		
			(外部評価)		
			利用者一人ひとりの似顔絵に、服の好みや整容の注意点をまとめた「おしゃれマップ」を作成し、日々のケアに活用されている。調査訪問時の食後の過ごし方も、一人ひとり希望を聞き支援されていた。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			ご本人やご家族から入所前に聞き取りをしている。ケアプランに基づき見直し時や立案時にご本人やご家族に聞き取りを行っている。		ホームに入所してからも暮らしを積み重ねていけるように一年ごとの暮らし方を残していく。入所前と入所後では暮らし方が変わってくる。アセスメントの方法を工夫すると共に自宅からの関係や生活を断ち切らないようにする。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			朝・夕の申し送りを出勤スタッフ全員で行い、スタッフ間の情報を伝えあうようにしている。朝にはその日の1日の過ごし方やご利用者の状態を確認し夕方にはご利用者の状態とどのように働きかけたのかを確認するようにしている。その情報を記録に残すようにしている。		情報がリーダーからの一方的に伝えられることも多い。スタッフひとりひとりの気づきや関わりを確認していく。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ご家族とはケアプランの見直し時に意見をもらったり、相談したりしている。スタッフ間では、日々の申し送り時やケアプランの見直し時に意見やアイデアを出し合うようにしている。ただ、ご家族からの情報や意見には差がありケアプランもサインをもらって終わってしまうかたもいる。		ご家族への説明や質問の仕方を工夫し、意見やアイデアを聞き出すよう働きかける。
			(外部評価)		
			個別記録の様式を改善し、利用者の言葉や様子をより具体的に把握できるよう工夫されており、1ヶ月分の記録をもとにケア会議を行っておられる。会議では、利用者の目標を支えるアイデアやご家族の思い等を十分踏まえて、話し合うようにされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			基本的には3ヶ月での見直しにしているが、ご本人の状態に変化が出やすい方は2ヶ月にしたり、入所時は1ヶ月で様子を見たりとご本人の状態に合わせた計画に添えるようにしている。		計画の見直し月を明確にしてご家族と見直しを行うようにしていく。
			(外部評価)		
			利用者の状態によっては2ヶ月で見直されたり、入・退院時には1ヶ月で見直す等、状況に応じて見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			センター方式の活用や記録の残し方の工夫、記録の記入はできている。申し送り時に情報の共有をしているが充分ではない。		記録をいかしきれず、実践できていないところも多い。記録に赤丸をつけたりケアに活かせる工夫を行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			自宅へ帰る支援やご家族の希望に合わせた外出など支援している。地域の小学校の運動会を見に行ったり、隣の小規模多機能ホームと交流をもっている。		地域との交流が減っている。働きかけを続けていく。
			(外部評価)		
			理美容室や通院の送迎等、状況に応じて対応されている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とは、日常的に交流されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 地域の方が声をかけてくれたり、花を持ってきてくれたりしている。ボランティアの受け入れや地域小学校の訪問など取り組んでいる。また、電車やバスに乗り地域のかたとふれあう機会をもつようにしている。		地域資源の情報が少ないように思う。スタッフと協力して、情報を集めご利用者に提案していきたい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入所するとホーム内でのサービスが主になっている。ケアマネジャーの講習などには参加し情報交換している。		以前は同事業所ではあるが、デイサービスなども利用するご利用者がいた。ご本人、ご家族に提案してみる。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 直接ご利用者に関わり協働はできていないが、運営推進会議に参加してもらい、地域の行事や動向、勉強会の誘いなど情報をいただいている。		権利擁護が行く行く必要なかたもおられるので、相談していく。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時にご本人やご家族と相談しかかりつけ医を決めている。協力医は月2回の往診があり、年2回定期検診がある。ご利用者の状況にあわせて相談できるようにしている。ご利用者の状態をご家族と相談し希望があれば、専門医の受診を行うようにしている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医に相談できるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホームの隣に訪問看護ステーションがあり、何かあればすぐに相談、対応してもらっている。週1回訪問があり、ご利用者とも関係ができており、日頃の健康管理を支援してもらっている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) まずは、入院にならないよう努めている。入院時には管理者が付き添い、入院期間や計画をご家族と聞くようにしている。また、一週間に1回は様子を見に行くようにして状態の把握に努めている。		入院時の記録が残せていない。記録紙を別につくり記録を残していくようにする。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入所時に管理者よりご本人、ご家族に説明し同意をもらっている。ご利用者の状態に変化がある度にご家族や医師、看護師と話し合う機会をもち支援につなげている。 (外部評価) これまでの看取りの経験から、医師・看護師にご家族の思いを伝えることの大切さを実感された。経験を活かして、早めにご家族にも声をかけ、考えるきっかけ作りを努めておられる。		スタッフが理解できていないところもある。内部勉強会で重度化について話し合う機会をもつ。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 方針をもとにしつつ、ご本人とご家族の思いを大切に話し合うよう努めている。協力医も変化時には往診をしたり、指示をくれたりしている。早い段階から、ご家族と相談するようにしている。(ケアプランの相談時など)また、スタッフにもご家族の意向を伝え共有するようにしている。		年を重ねていくと重度化は避けられない。一年一年の確認をチームで行う。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ご家族やご本人に関わる関係者(ケアマネジャーが多い)から話を聞き情報を収集している。移り住む際も必要な情報は伝えるようにシートをこまめに更新している。また、入所に際しては、ご家族の協力を求めるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価) 記録は事務所に保管している。事務所に外部の方が入る場合は必ずスタッフが同席するようにしている。スタッフには年に1回内部勉強会にて誇りやプライバシーについて理解を深めるようにしている。</p>		<p>プライバシーに関して、現場での声かけや対応ができていないこともある。スタッフ間で声を掛け合うようにする。</p>
			<p>(外部評価)</p>		
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>			<p>(自己評価) ご利用者に何でも相談することを大切にしている。過ごし方や行事なども一人一人の認知の状態にあわせて選べるような場面をつくっている。意思表示が困難な場合には、表情や状態から読み取りスタッフの想いを押しつけないように複数の選択肢を用意し支援するようにしている。</p>		<p>希望を聞いていてもすぐ実践できていない事もある。(食事、温泉、松劇など)計画をもって取り組んでいく。また、ご利用者の希望にはなるべくすぐに支援できるようスタッフ間で申し送る。</p>
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価) お一人お一人のその日の状態や気分、希望に合わせて過ごし方を決めている。行きたいところに外出(自宅やイベント、買物など)したり、サインを読み取り休む場面をつくったりとしている。しかし、入浴や行事などスタッフの都合できめていることも多い。</p>		<p>・スタッフの力量(サインの読み足りや聞き方、促し方など)と関係により大きく変わることも多い。ご利用者にとって、各スタッフがどのような存在なのか情報交換しつつ支援する。 ・お一人お一人がどうしたいのかに着目し行事などは組み立てていく。行事後は、スタッフ間で情報を持ち寄り次に繋がるようにする。</p>
			<p>(外部評価)</p>		
			<p>職員は、利用者が発した言葉の背景を探り、希望をうかがいながら支援することを心掛けておられる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) C-1-2シートを使い情報の収集を行った。口の周り、目の回り、爪に関しては、以前より意識して支援するようになっていた。また、ちょっとした外出時にも着替えを促すようになった。理美容はご本人の希望をもとにご家族と話し合い決めている。今年より、毎月訪問理美容師が来所するようになった。		年1回はC-1-2シートの確認を行い、希望に変化がないかスタッフ間で確認する。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者お一人お一人ができることができるよう環境をつくっている。食事はスタッフも同じ時に同じものを食べるようにしている。食事の準備から片付けまでご利用者と共にするようにしている。 (外部評価) 食事の支度を利用者と職員が協力し合って行っておられる。調査訪問時は、利用者のご自宅の家庭料理である「大豆いりご飯」がメニューとなっていた。利用者は、順番に一人ずつご自分の食器を片づけておられた。		・昼食時はできているがバタバタとして終わってしまうときもある。せめて、毎食後にゆっくりと会話をする時間をもつ。 ・食事の席やフロアの雰囲気づくりにも留意する。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お一人お一人にあわせているが、マンネリになっているところも多い。買物時にご自分の好きなものを買われたり、行事の時などにお酒をたしなむことはある。食事においても個々の好みを考えて盛りつけするようにしている。		・飲み物にバリエーションがない。お茶の種類や紅茶など取りそろえてみる。 ・外出時にはホームからお茶を持っていくことが多いが、外出先でも選んで飲める場面をつくってみる。
56		気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック票を活用し、チームで毎日確認するようにしている。体調や状態にあわせてオムツの使用を考えている。排泄の際ご本人のそばに立っているスタッフもいる。ひとりになれる環境も必要なのでは。		・ご本人の状態ではなく、時間で誘導しているところもあるのでサインや状態を読み取っていく。 ・オムツを使いすぎているのでは。ご家族の意見も聞きつつ支援する。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ホームとしては三日に1回のペースで促している。ご本人の体調や気分に合わせて個々に変動させている。毎日入浴される方、シャワー浴を好まれる方、お湯の温度にこだわりのあるかなど好みを知れるようになった。		時間帯が決まっていたり、重度の方はスタッフの都合になりやすいので工夫する。また、温泉に行ってみるなど楽しみがもてるよう工夫する。
			(外部評価) 入浴剤を使用したり、浴室に植物を置く等して入浴を楽しめるよう支援されている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) フロアでも休めるように畳やソファを置いている。お一人お一人の睡眠パターンをチェック票で確認している。日中の活動(散歩、ドライブ、庭掃除、家事など)を促し、外出できない方へも近所の散歩や日光浴など促している。		入眠前の過ごし方が個々に任せすぎているところがある。もっと寄り添う必要のあるかたもいるのではないかと。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) お一人お一人にあわせて話題をふったり、地域の行事やなじみの地域に出かけたりしている。三線のボランティアやお話ボランティアを受け入れし、スタッフではできない支援を助けてもらっている。外出ではいろんなところに出かけているが、ホーム内での楽しみごとが少ないように思う。		スタッフの提案の方法でご利用者の気分も変わるので、その日の状態を見極めて支援する。また、レク用品の整理を行いいつでもできるように準備しておく。
			(外部評価) 近所のお店に、おやつを買いに行くことを楽しみにされている方がおられる。調査訪問時、「松山かるた」を楽しみながら地元の話等などで会話も弾んでいた。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご利用者、ご家族にあわせて行っている。ご自分でお金を管理しているかたもいる。		ご利用者によっては持ち金が少なくなると不安になる方もいる。ご家族とご本人の想いが違うところもあるので、ご家族と相談しながら支援する。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			外出の頻度は以前に比べて減っているが、お一人お一人の希望や好みに合わせて、行きたいところに行けるよう支援している。また、ちょっとした外出や縁側にすることも。バスや電車をつかって外出する方もいる。		希望の聞き出しができていないかたもおられる。お一人お一人のタイミングや今行きたいところ、目的などを明確にして支援する。
			(外部評価)		
			小学校の運動会、デパートのコンサート、動物愛護センターでの動物とのふれあい等、地域のイベント情報の収集に努め、外出の機会を増やしておられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			ご本人の誕生日に個別で外出できるように働きかけている。ご家族の予定で外出していただけることもある。また、フジの花を見に行ったり、新聞に載っているところをご利用者提案するようにしている。		日常的に個別外出のような働きかけを行えるよう、朝の申し送り時にスタッフ間で情報の共有を行う。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			手紙や電話など去年よりする機会が増えた。暑中見舞いやお礼状など取り組めた。他ホームのやりとりも手紙でできるようになった。		スタッフが意識して働きかけることが必要。ちょっとしたお礼や近況報告なども電話や手紙のきっかけにして働きかけていく。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			訪問時間は決めておらず、いつでも訪問できるようにしている。場合によってはフロアでご利用者と共にすごしお話したり、居室にてゆっくりと過ごしていただいている。		ご利用者と何かできる場面作りを行う。一緒に時間を過ごせるよう工夫する。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部の勉強会にて取り上げ、スタッフ間で振り返る時間をもった。身体拘束はしていない。		ご利用者の状況によっては必要になることもあるのでは、その時チームで身体拘束しなくて済む工夫を検討していく。また、一年に一回は、内部勉強会で取り上げていく。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけていない。(玄関にセンサーはあり、チャイム音が鳴る。)夜は防犯のため鍵をかけている(21時~6時)が、中から鍵の開け閉めもできる。 (外部評価) 日中、玄関には鍵をかけていない。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) ご利用者の状況に合わせて見守りや声かけをおこなっている。二階の物音にもすぐに対応するようにしている。また、二階のセンサーもあり、状況によって使用するようにしている。居室で過ごされているときも、最低一時間に一回の巡回、ご利用者の状況に合わせておこなっている。		スタッフ間で情報が共有できていないことも、お互いが任せきりではなく、個々がご利用者の状況を把握していくようにする。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 基本的にスタッフのいるところでご利用者に使ってもらうようにしている。ご本人の認知状態に合わせて、見守り、確認していくようにしている。また、スタッフが把握できない場所に洗剤などを置く時は扉のある場所に置くよう徹底している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ひやり・はっとを活用し、スタッフ間で情報や改善を共有するようにしている。また、ミーティングや勉強会でもとりあげるようにして知識として学ぶ場面をつくっている。事故が発生したときはマニュアルに従い早期に対応するようにしている。		“あれっ”と思えることが大切。ご利用者の状態の変化をスタッフ間で共有し未然に防ぐようにする。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に一度は消防署からの救命講習をスタッフが受けれる機会をもっている。講習を受けたスタッフが講師になり、内部勉強会で実際に人形(消防署から借りて)をつかってスタッフ全員で救命の確認をできるようにしている。緊急時の連絡方法を電話そばに貼っており、それに従い通報するようにしている。		マニュアルの確認を行う機会が少ない。避難訓練時などに見直す必要がある。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に1回は消防署立ち会いの下、避難訓練を行っている。また、自主的に3ヶ月に1回は訓練を行うようにし、避難器具や避難経路の確認を行っている。また、運営推進会議にて、地域の方に協力を呼びかけている。 (外部評価) 併設の小規模多機能事業所と協力して防災訓練を行い、連絡体制の見直し等、課題を明確にされた。地域の協力をいただいた訓練は、今後の取り組みとなっている。		隣の小規模多機能ホームとの協働での訓練がまだまだできていない。マニュアルを作るなど、協力できるよう訓練を行う。 マニュアルの整備、地域の協力を得ての防災訓練、水害時の対策等についても取り組みを計画されていた。今後、利用者・職員の安全、安心に向けた取り組みを続けていかれてほしい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時や見学時に説明している。状態が変化しリスクが予想される時はその都度家族に相談している。		打ち身を発見した時や傷を見つけたときなどはひやり・はっとを記入する自分たちのケアが雑になっていないか確認する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) いつもと違うと感じたらすぐに主治医や看護師に報告したり相談し、往診や状態の確認に来てもらい指示をもらうようにしている。また、申し送りにはその日のご利用者のバイタルや排泄状況、食事量を確認しチームで共有するようにしている。		スタッフによっては聞き流していたり、気づいていないこともある。ひやり・はっとを活用しつつ気づけるよう働きかける。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内部の勉強会にて、薬に対する理解を深めた。薬の変更時には申し送りをし、処方箋にて副作用など確認するようにしている。		薬の目的まで把握できていないところがある。個々になぜその薬が必要なのか内部の勉強会で確認していきたい。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 申し送り時にその日の排泄状況をチームで確認するようにし、ご利用者にあわせて腹部マッサージや温めなど行っている。食事ではバナナやリンゴ、ごぼうなどとするようにしている。		個々によっては薬に頼ることで安心して排泄できるかもいる。また薬が効きすぎる方もいるので、薬の使用も含めて検討する。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) ご利用者の状況にあわせて食後は洗面所にて行ってもらっている。ガーゼやスポンジをご利用者によっては使用したり、食べ続けることができるよう口腔のマッサージなどおこなっている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に水分量をチェックしている。不足しているときは夜間や早朝などご本人の状況にあわせて飲めるよう工夫している。食事量も個々にあわせて確認するようにし、ご本人の好きなものや食べやすいものを出すようにしている。 (外部評価) 図入りの食事のカロリー表を事務所に貼って、献立について栄養バランスの確認をされている。食事・水分の摂取量を一人ひとり把握されている。		飲んだ飲まない、食べた食べないなどに意識がいてしまいがち。ご本人全体をとらえて必要なのが見極めていく。
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 月末に感染症マニュアルをスタッフがつけ課題点をあげチームで改善案を確認している。チェックしていくことで意識が変わっているのでは		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 夜勤時にコップや台ふき、まな板をハイター消毒している。冷蔵庫も汚れた度に拭き取り、月1回は消毒するようにしている。食材は賞味期限を確認して使用している。また、同じ食事をスタッフも食べるようにしている。</p>		<p>発注の量を考える。残り物の処分ができていない時もあるので、名前の書いてないものは夜勤者が処分するようにしていく。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 日中、玄関は開放しており、出入りしやすい。季節を感じるものや行事の案内などを掲示している。ご利用者自身が活けた花をおいたりと雰囲気づくりをおこなっている。</p>		<p>玄関そばに犬を飼っているため糞や臭い、毛の掃除など気をつける。</p>
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 日中に見ないテレビは消すようにして、ラジオやCDをかけるようにしている。フロアの飾りについてもご利用者と相談しながら共に飾り付けるようにしている。ご利用者の手の届くところに物品を置くよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居間には利用者の生けた花が飾られ、ソファや畳のコーナーで休めるようになっており、利用者それぞれにお気に入りの居場所がある。</p>		<p>物品の整理が必要。（写真、レク用品、本など）ご利用者と共に整理してみる。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) なるべく思い思いに過ごせるよう、いろんな場所に椅子を置くようにしている。ソファの位置やたたみをはくなど休めるような工夫も行っている。</p>		<p>居室で過ごすご利用者も多い。フロアでも過ごせる工夫が必要。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			居室にはご本人とご家族と相談しつつ、なるべく使い慣れたものや馴染みのものを置くようにしている。ご利用者の生活スタイルにあわせて物品を工夫している。		
			(外部評価)		
			利用者の使い慣れたタンス等が持ち込まれ、ご家族の写真やプレゼントの花等を飾っておられる。畳にふとんを敷いて休む方や、仏壇を持ちこまれている方もうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			こまめに温度をチェックしている。ご利用者の肌に直接触って確認している。日中は窓を開けたり扇風機を利用し換気に努めている。		ご利用者の居室に臭いがこもっていたり、温度調節できていなかったりする。ご本人と確認しながら支援していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			グループホーム内の危険マップをつくりわずかな段差にも注意するようにしている。		福祉用具や自助具の使い方がバラバラになっている。活用できるよう内部勉強会で取り上げる。
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			2階のカレンダーにて行事予定を記入したり、フロア内にも行事のお知らせなどをはっている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			玄関先の駐車場で日光浴をしたり、食事を楽しんだりしている。縁側にもでてティータイムや花を見て楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日々の申し送りや記録のなかでつかむようにしている。また、会話や日常の中で聞き取り、引き出すように取り組んでいる。ご利用者の思いや願いを知っていくにもご利用者の表情や動きを見逃さない。ご利用者の発した言葉も本音の部分と変わることもあるので、日々探っていく。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ②	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	バタバタと過ごすスタッフもいるが、食後やティタイムなどは意識して、ご利用者とゆっくりと過ごすように取り組んでいる。また、居室や外出時など個別にゆっくりと時間を持つように工夫している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご自分で、意思やペースを伝えられる方などは自由に居室とフロアを往復するなど、ペースに合わせて過ごせるように支援している。しかし、受け身な方に対してはご本人のペースがわかりにくくスタッフの想いで関わったり、できることを奪ったりしているのでは。また、スタッフによってはご利用者のペースを把握できないところも。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出時や会話時、日々の何気ないことでもご利用者とスタッフが、一緒に笑ったりする姿がある。また、ご利用者によって裁縫やお客様の接待、活け花、調理、お世話など役割をもって生活できるよう支援している。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ドライブや近所の散歩、他のグループホームや高島屋、近所の喫茶店や商店、スーパーや薬局、イベントへの参加などいろんなところに出かけている。ホームにこもらないようにしているが、外出が好きならばばかりではなく来てくれるのが好きな方もいらっしゃる。また、行きたいところが引き出せるように支援していきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご利用者の状況にあわせて主治医を決めている。痛みやしんどいという訴え、いつもと違うというスタッフの気づきや傷など申し送り対応を主治医に報告しつつチームで考えていくようにしている。日々の言葉にできないサインをチームで読み取っていききたい。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ②	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご利用者にとってなにか一番大切なのか考えスタッフ間で相談・対応している。ご利用者の不安や混乱に対しても以前よりわかるようになってきている。今後も記録やアセスメントからご本人の今を大切にしていって支援を積み重ねる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ③	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	管理者とはこまめに話す場面があるが、他のスタッフは挨拶程度で終わってしまうところもある。ご家族によっては管理者と話ししたい方もいる。スタッフもご利用者もご家族も交わる場面をつくっていく。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	他のグループホームの方や、ボランティアの方、小規模多機能ホームの方、近所のかたなど限られた方ではあるが訪問してくれる方もいる。散歩時に近隣の方に声をかけ、遊びに来てくれるように働きかけていく。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	①大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	小学校の福祉体験が実現しご利用者と小学生の交流を持つことができた。また、地域行事に参加時地域の方から声をかけてもらったり、配慮いただいている。お互いのことをもっと伝えあい理解し合っていきたい。
98	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	悩んでいたりと、疲れのあるスタッフもいるが、ご利用者と関わっている時は笑顔になっている。ご利用者に支えてもらいながら、ご利用者にとってよりよい生活となるよう努力している。
99	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフの関わりによるが、表情豊かに喜怒哀楽を表現して生活されているのではないかと思う。ただ、何事もなく1日が過ぎていくご利用者もいる。スタッフひとりひとりがご利用者に感心を持ち意識して関わっていくことが大切だと思う。
100	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	“ここに、帰ってこれて良かった。” “ここにいるから、安心してます。”という言葉を受け取る。関係がうまくいってなかったり、何でもいってもらえる関係ではないところもあるが、ご利用者を共に支えていただけるよう関わっていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・ 外出、過ごし方に力を入れて取り組んでいる。なるべく柔軟に、個別にご利用者お一人お一人が満足できる1日になるよう外出、過ごし方の提案をしている。

・ ご利用者を大切に基本とし、ご利用者と共に悩んだり考えたり、笑いあったりできるようご利用者同士、スタッフ関係づくりを日々行っている。

・ 委員の活動を通じて、ご利用者の生活の質向上に取り組んでいる。過ごし方やご利用者の好み、昔を思い出す場面作りなどチームでアイデアを出しながらより具体的に取り組んでいる。

・ 日々の気づきを明日のケアにつなげるよう、出勤スタッフ全員で申し送りをおこない、毎日ミニカンファができています。

・ スタッフ全員がご利用者にとってよりよい生活になるようにと努力をしている。各スタッフひとりひとりが今自分にできることを一生懸命に取り組んでいる。